

宮古島佐良浜の年中祭祀—祭祀と供物（試論）

上原 孝三

1. はじめに一佐良浜の概況

宮古諸島の中に伊良部島がある。隆起サンゴ礁の島で面積29,06平方キロメートル。島の北東から東にかけて標高20メートルほどの断層崖が続いている。それが島の西部まで続いている。全体的に平坦だが、地形は北方から南方へ穏やかに傾斜している。最高地点は島の南東部にある標高89メートルの牧山(マキヤマ)である。サトウキビ栽培と漁業が盛んな島である。人口は、5,045人(2019年度の統計)である。

集落は島の南部に5ヶ字ある。すなわち、東区2カ字(伊良部・仲地)、仲区1字(国仲)、西区2カ字(長浜・佐和田)の5字である。池間島と宮古島に対面する北部に北区2カ字(池間添・前里添)がある。池間添・前里添を佐良浜と総称している。

佐良浜は伊良部島の東北部の海を臨む海岸線に位置する。佐良浜は、字池間添と字前里添の二集落から形成されるが、池間島の池間・前里からの出身者を中心に形成された。この二つの集落は隣接しているので、部外者には境界線を知る事ができない。

伝承によれば、土地が狭く耕作面積が少ない池間島から伊良部島(佐良浜)に畑作農業をするに、船に乗って通っているうちに、いつのまにか佐良浜に住み着いた、ということである。つまり、佐良浜は池間からの分村となる。ムトゥジマ(元島。本村)である池間島同様漁業に従事する者が多い。

1766年に池間添村と前里添村が設立され、

近世の文献には両村を「佐那浜」と記している。

1908年、特別市町村制施行で伊良部村に属し、二カ字となる。字池間添をモトムラ(本村)字前里添をナカムラ(仲村)と称している。この二カ村の関係は祭祀とも深く関係してくる。

佐良浜には、佐良浜中学校、郵便局、診療所、漁業組合など政治・経済・教育の基幹となる施設が多い。また、かつて南方出漁基地で知られ、南方基地カツオ漁業船の母港でもある沖縄県が管理する佐良浜漁港がある。港の付近には、漁港事務所、製氷冷凍工場、離島振興総合センターなどの施設がある。

かつては、佐良浜港・平良港間をフェリーや旅客船・貨客船が一日に何度も往復し、伊良部島の物流・人の移動の玄関口であり、陸海の交通運輸の要であった。2015年1月に宮古島と伊良部島を結ぶ伊良部大橋(3,540メートル)が架橋された。伊良部大橋は無料で渡ることができる日本で一番長い橋である。伊良部大橋が架橋され、その影響によって佐良浜は昔日の面影が消えつつある。

佐良浜の伝統行事は、ダチンマ(抱く母)と称される神役を中心に担われる。祭祀場所は、池間島から招請したウハルジウタキ(大主御嶽。別称ナナムイ)を中心に行われる。民俗文化財にサバウチイガー(鯖口井戸)があり、民俗祭祀としてユークイ(世乞い)やミヤークヂイ(宮古節。宮古島指定無形民俗)は有名である。

『みやこの祭祀』によれば、佐良浜には年間35にわたる村落レベルの祭祀儀礼がある。佐良浜の年中行事を述べた文献は少なくなく、

様々な研究報告書にみえる。民俗学だけではなく、佐良浜が諸学問の研究対象地にされ、注目されてきた所以はどこにあるのか。

池間島とその分村である佐良浜と西原には「世乞い」・「宮古節」などの民俗祭祀がみえる。言語(方言)・民俗習俗・地名・屋号などが似ており、重なりも見える。池間・佐良浜・西原の人々は自らを「池間民族」と呼んでいる。

本稿では、『宮古島市史』収載の「佐良浜の年間祭祀」をテキストにし(以下、「テキスト」と記す)、①祭祀の名称、②神役とその職能、③参加者、④祭祀場所、⑤供物の観点から佐良浜の年中祭祀を分析していきたい。また、本稿では必要に応じ、池間や西原の事例も述べていきたい。

2. 佐良浜の神役・拝所

佐良浜の村落祭祀は、神役ウフンマ(大母)、アグシャー(歌を謡う者)、ナカンマ(中母)の3人が中心となって実施される。この3人はダチンマ(抱く母)と総称される。ダチンマには格(ランク)があり、ウフンマが最高神女、次いでアグシャー、3番目がナカンマとなる。ダチンマはモトムラとナカムラにそれぞれ存在する。以下、神役とその補助役について概略する。神役は、各字3人ずつなので都合6人となる。

<女性神役>

ウフンマ(大母)

オホヂカサ(大司)。神祭りを中心となって司祭する。1名。任期3年。

アグシャー(歌を謡う者)

歌謡を謡う者の意。アグシャーンマ(歌を謡う母)、カカランマ(懸かる母。神が憑依する母)、あるいは単にカカラともいう。シャーマン的な能力を持った人が選ばれる。

祭祀中に神歌オヨセを謡う。佐良浜では通常、カカラを多く用いるので、以下、カカラで表記する。1名。任期3年。

ナカンマ(中母)

神祭りに用いる供物や祭祀器具の準備などをする。1人。任期3年。

<女性神役の補助役>

アニタ・アニタチ(姉達)

ダチンマ経験者で、現役のダチンマに祭祀実施上の供物の数量の適切な数・適量や祭祀の手順の助言などする。一種の監視役である。

ユームチャー(世を持つ者)

ユームチャーは神役ではないが、ダチンマの要請により祭祀に参加したりダチンマの荷物を持ったりする。

<男性の補助役>

区長

祭祀の費用を神役に提供し、祭祀が順調に行えるように祭祀場所の掃除などをする。

シマカラーヂィ(村カラーヂィ)

ヒダガンニガイ(浜神願い)などで供物の豚・豚肉を運び、また、祭祀場所の掃除などをする。

ウヤ(親)

ムトゥヌウヤ(元の親)ともいう。ムトゥ(元)を構成する男性。数え年50歳からムトゥに加入する。

佐良浜の祭祀は、以下の拝所で行う。概説になるが、詳細については『平良市史』(第8巻御嶽編)を参照されたい(注①)。

拝所名

<主な御嶽・拝所>

ウハルジィウタキ(大主御嶽)

通称ナナムイ(七杜)。池間島の大主御嶽を招請したもの。ウパルヂィ・ウハルヂィとも

簡略される。

ウジャキニー（お酒根）

お酒の神を祀る。

ナツヴァニー（ナツヴァ根）

染め物の神を祀る。

ウイラニー（ウイラ根）

豊作と豊漁の神を祀る。

ンヌチニー（生命根）

生命の神を祀る。

ナカマニー（仲間根）

仲間豊見親の神を祀る。

アカマミー（赤豆）

赤豆の神を祀る。

ニカムラヒャーディ（二カ村比屋地）

池間添と前里添ニカ村の合同御嶽。

ヒャーディウタキ（比屋地御嶽）

佐良浜ではクンマウキヤウタキともいう。

この御嶽は字伊良部のそれであり、農業神・

アカラトモガネを祀る。

カヂイマ

長山御嶽の北、御嶽に隣接するところにある。長山御嶽の祭神はカニドゥで大和からの伝来といわれる。

<井戸>

サバウチイガー（鯖口井戸・鯖沖井戸）

池間島からみるとサメ（サバ）の口に似ていることから名付けられたともいわれる。宇池間添の西はずれ、海岸端にある。上水道普及以前、1966年の簡易水道が整備されるまで、佐良浜の女性たちは水汲みのため、100段余の石段を上り下りした。カーヌカンニガイに拝む。

アガイヌカー（東の井戸）

宇前里添の東はずれにある降り井戸。上水道普及以前に生活用水として用いられた。カーヌカンニガイに拝む。

<浜>

佐良浜漁港の東方の浜

明瞭な目印となる拝所はない。記憶により昨年行った場所あたりに適当な大きさの石を置く。ここでカエルニガイを行う。

<学校>

佐良浜小学校

学校正門を右手に行ったトゥラヌハカドゥ（寅の方の角）に拝所がある。2019年に伊良部小学校と合併・統合された。

佐良浜中学校

学校正門を左手に行ったトゥラヌハカドゥ（寅の方の角）に拝所がある。

3. 佐良浜の年間祭祀の構造—モトムラのウフンマとカカランマの「ノート」から

『宮古島市史』収載の「佐良浜の年間祭祀」について述べる前に、今から約30年前1992年のモトムラのウフンマの祭祀忘備録「ノート」（注②）を紹介したい。それには年間60もの祭祀名・実施月日・干支・備考などが記録されている。

2020年3月に、同じくモトムラの元カカランマの「ノート」（注③）を拝見する機会にめぐまれた。記載された年代からウフンマ（大母。譜久島さん）とカカランマ（懸かる母。福里さん）とは同時期に神役を務めたことが判明する。「カカラ」の「ノート」に記された祭祀は44である。両「ノート」の祭祀の数としてはウフンマの「ノート」の方が多い。しかし、ウフンマ「ノート」が佐良浜のすべての祭祀を記載しているわけではない。

例えば、「カカラ」の1993年・1994年の「ノート」には「正月フチアキニガイ（正月口明け願い）」があるが、それがウフンマの1

992年の「ノート」に記されていないことや、「ミッカニガイ (三日願い)」が記載されていないことが挙げられる。

しかし、祭祀の内容が記されていないとはいえ、両「ノート」は神役経験者による記録であり、

貴重といえる。ただ注意すべきは、祭祀の「月日」と干支が異なるものがある(注④)。両ノートを比較するため「モトムラウホンマ」の「ノート」に「カカラ」の「ノート」にある祭祀を○印で記した(「表1」参照のこと)。

佐良浜「ヒドリ帳」 「モトムラ ウホンマ」のノートから「表1」

番	年月	干支		1992 (平成4・申) 年	備考
1	1月1日	きのえ	たつ	お正月 シナカヌヒ (ツイタチニガイ)	朝6時ナナムイに行く
2				(正月フチアキニガイ)	
3	1月15日			十六日ヌシナカヌヒ?	朝6時ナナムイに行く
4	1月21日	かのえ	うま	マビトダミ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
5	2月4日	みずのえ	うま	カリユシダミ ニガイ ○	朝5時半ナナムイに行く
6	2月7日	きのと	とり	ウホユダミ ニガイ ○	朝5時半ナナムイに行く
7	2月12日	かのえ	とら	シマカリユウ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
8	2月13日	かのと	う	マビトダミ カサンバン ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
9	2月16日	きのえ	うま	カリユシダミ カサンバン ニガイ	朝6時ナナムイに行く
10	2月17日	きのと	ひつじ	ウホユダミ カサンバン ニガイ ○	朝5時ナナムイに行く
11	2月21日	つちのと	み	井戸 ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
12	2月23日	かのと	うし	ムスヌヌン ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
13	2月25日	みずのと	う	浜ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
14	2月29日	つちのえ	さる	ツイタチ ニガイ	朝5時ナナムイに行く
15	3月2日	かのと	いぬ	生徒 ニガイ ○	朝5時半ナナムイに行く
16	3月4日	みずのえ	ね	泳ぎ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
17	3月10日	つちのえ	うま	アニヌンマ クライアガイ ニガイ ○	
18	3月14日	みずのえ	いぬ	カサヌバン ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
19	3月22日	かのえ	うま	カカラアニンマ クライアガイ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
20	3月23日	かのと	ひつじ	本村カカラ クライアガイ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
21	3月26日	きのえ	いぬ	ムズヌ バンムツ ニガイ ○	朝3時ナナムイに行く
22	3月30日	つちのえ	とら	ツイタチ ニガイ	朝6時ナナムイに行く
23	4月1日	つちのと	う	伊良部へ行く。クバ笠もかぶる。	
24	4月3日	かのと	み	長山カズマ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
25	4月6日	きのえ	さる	伊良部ヒャーズ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
26	4月10日	つちのえ	ね	豆ヌ バンムツ ニガイ ○	朝3時ナナムイに行く
27	4月13日	かのと	う	棧橋 ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
28	4月21日	つちのと	み	粟ヌ バンムツ ニガイ ○	朝3時ナナムイに行く
29	4月22日	かのえ	ね	タビカリユウ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
30	4月27日	きのと	み	ムズビユウイ ウサギ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
31	5月1日	つちのえ	さる	ツイタチ ニガイ	朝5時半ナナムイに行く
32	5月2日	つちのと	とり	大漁 ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
33	5月4日	かのと	み	ハーリー フツアキ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
34	5月11日	つちのえ	うま	芋ヌ バンムツ ニガイ ○	朝3時ナナムイに行く
35	5月23日	かのえ	うま	ハナヒツダミ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
36	5月27日	きのえ	いぬ	キビ ニガイ ○	朝5時半ナナムイに行く
37	6月1日	ひのと	うし	ツイタチ ニガイ	朝6時半ナナムイに行く
38	6月19日	きのと	ひつじ	アワビユウイ ウサギ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
39	6月22日	つちのえ	いぬ	(日ドリトリ)	朝6時ナナムイに行く
40	6月26日	みずのえ	とら	ウホンマヤーに雨乞いをした。 ○	
41	6月30日	ひのえ	うま	ツイタチ ニガイ	朝5時半ナナムイに行く
42	8月1日	つちのと	う	ツイタチ ニガイ	朝5時半ナナムイに行く
43	8月4日	つちのと	う	ウホンマ二人 クライアガイヌ ニガイ ○	
44	8月10日	きのと	とり	ウホバンホトツ ニガイ ○	朝3時ナナムイに行く

45	8月19日	きのえ	うま	ミヤークジツ ○	朝6時ナナムイに行く
	8月20日			ミヤークジツ	
	8月21日			ミヤークジツ	
	8月22日			ミヤークジツ	ンマダリ(粟神酒)をつくった
46	8月24日	つちのと	み	ウホンマ ニガイヌ バン ○	
47	9月1日	きのと	み	ツイタチ ニガイ	朝6時ナナムイに行く
48	9月29日	きのえ	ね	ユウクイ ○	夕方4時ナナムイに行く
49	9月30日	きのえ	いぬ	ツイタチ ニガイ	朝6時ナナムイに行く
50	10月1日	きのと	み	伊良部行	朝6時ナナムイに行く
51	10月7日	かのと	み	マキ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
52	10月10日	きのえ	さる	ヒヤーズ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
53	10月21日	きのと	ひつじ	イモビュウイ ウサギ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
54	11月1日	きのえ	たつ	ツイタチ ニガイ	朝6時ナナムイに行く
55	11月7日	かのを	いぬ	ダツナウイ ニガイ ○	朝6時半ナナムイに行く
56	11月11日	きのえ	とら	ハマ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
57	11月12日	きのえ	う	トマイ ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
58	12月4日	ひのと	うし	カエル ニガイ ○	朝7時ナナムイに行く
59	12月20日	みずのと	み	イド ニガイ ○	朝6時ナナムイに行く
60	12月30日	みずのと	う	ツイタチ ニガイ	朝6時前ナナムイに行く
	1月1日			(お正月)	

注 () は引用者が補った

「カカラ」のノートには、「ツイタチニガイ」や「伊良部行」などが記されていない。逆にウフンマの「ノート」には「日ドリトリ」(祭祀の日を選定する)がない。両「ノート」を突き合わせることで、佐良浜(池間添)の祭祀が浮かび上がってこよう。

上記の表以外にも佐良浜の神役は、新築祝い、結婚祝い、個人の助け願いなどの祈願依頼があれば引き受けるので、年間約70ほどの儀礼をこなすことになる。日数的には祭祀当日のみならず、祭祀の準備の日もあるので、実質的には100日を超えるであろう。神役は、年間の約3分の1の日数を祭祀儀礼に費やすことになる。

さて、上記の表から、以下のことが指摘できる。1月から6月までが前期の祭祀となる。7月は神不在の月だから、7月には祭祀は行わない。8月から12月までが後期となる。つまり、佐良浜の祭祀は1年を2つのサイクルに分けていることになる(注⑤)。

祭祀内容は大きく、①農業関係、②漁業関係、③神役関係、④月の初めの願い、⑤井戸関係などに分けられる。

佐良浜の祈願場所は、その多くがナナムイ(七柱)で行うが、③神役関係の祭祀、例えば「クライアガイニガイ(位上がり願い)」とか、「伊良部行」の他村落のムヌシー(物知り)を訪ねる場合にはナナムイに行かない(祈願しない)ことに特徴がある。以下、試みに祭祀を⑩の項目に分ける。

① 農業関係の祭祀(12)

ウホユダミニガイ、ウホユダミカサンバンニガイ、ムスヌヌンニガイ、ムズヌバンムツニガイ、ムズビュウイウサギニガイ、豆ヌバンムツニガイ、粟ヌバンムツニガイ、アワビュウイウサギニガイ、芋ヌバンムツニガイ、イモビュウイウサギニガイ、キビニガイ、ウホバンホトツニガイ。

② 漁業関係の祭祀(10)

カリユシダミニガイ、カリユシダミカサンバンニガイ、泳ぎニガイ、ハマニガイ(2)、棧橋ニガイ、タビカリユウニガイ、大漁ニガイ、ハーリーフツアキニガイ、トマイニガイ。

③ 神役関係の祭祀(8)

ダツナウイニガイ、アニヌンマたちのクライアガイニガイ、カカラアニンマたちのクライアガイニガイ、本村カカラクライアガイニガイ、日ドリトリ、ウホンマ二人がクライアガイヌニガイ、ウホンマニガイヌバン、ダツナウイニガイ。

④ 月の初めの願いの祭祀(9)

ツイタチニガイ。

⑤ 井戸関係の祭祀(2)

イドニガイ。

⑥ 村落のムヌシーを訪ねる祭祀(2)

伊良部行。

⑦ 人願関係(4)

マビトダミニガイ、マビトダミカサンバンニガイ、生徒ニガイ、ハナヒツダミニガイ。

⑧ 悪霊退散関係の祭祀(1)

カエルニガイ。

⑨ 臨時の祭祀(1)

ウホンマヤーでの雨乞い。

⑩ その他の祭祀(9)

お正月ンナカヌヒ、シマカリユウニガイ、カサヌバンニガイ、長山カズマニガイ、伊良部ヒャーズニガイ、ミャークジツ、ユウクイ、マキニガイ、ヒャーズニガイ。

4. 祭祀と神役・参加者

祭祀と神役・参加者について述べたい。テキストは『宮古島市史』(第三巻 祭祀編 下)の

佐良浜を用いる(注⑥)。テキストには33の祭祀がある。1992年の「ノート」と比較すると約半数になる。佐良浜の年中祭祀の担い手は、基本的にはウフンマ、アーグシャー、ナカンマの3人を中心に行われるが、祭祀により参加者が増える。3人は1組のセットであり、それぞれ単独で祭祀を行うことは原則的にない。祭祀をするにあたり実修・参加者の観点からみる。

例えば、「ツイタチニガイ」の場合、ウフンマ、アーグシャー、ナカンマの3人である。これを基本形とし、I型とする。祭祀への参加者の観点からみていくと、以下のように分類される。

I型 ウフンマ、アーグシャー、ナカンマの3人で行う。

「祭祀名」ツイタチニガイ、ショーガチフチアキニガイ、マビトウダミニガイ、カーニガイ、ムシヌヌン、マミヌバンムチイ、ムヂヌバンムチイ、アワヌヌバンムチイ、イモヌバンムチイ、ハナヒチイダミニガイ、ハーリーチイフチアキニガイ、ウフンマニガイヌミッカニガイ、セイトニガイ。(14)

II型 ウフンマ、アーグシャー、ナカンマ＋ウフンマヌユームチャー、アーグシャーヌユームチャー、ナカンマヌユームチャー
「祭祀名」カヂイマニガイ、マキニガイ。
(2)

III型 ウフンマ、アーグシャー、ナカンマ＋ウフンマヌユームチャー、アーグシャーヌユームチャー、ナカンマヌユームチャー＋ナナソンマ(ユークインマ)
「祭祀名」ユークイ。(1)

IV型 ウフンマ、アーグシャー、ナカンマ

+ウフンマヌユームチャー、アグシャー
ヌユームチャー、ナカンマヌユームチャー
+先輩の元神役

「祭祀名」ウフンマニガイ、ムヂイ
ビューイウサギ、アービューイウサギ、
イモビューイウサギ。(5)

V型 ウフンマ、アグシャー、ナカンマ
+ウフンマヌユームチャー、アグシャー
ヌユームチャー、ナカンマヌユームチャー
+先輩の元神役+ヤーキヌンマ

「祭祀名」マビトウダミニガイ、マビトウ
ダミカサンバン、カリユシダミニガイ、
カリユシダミ、ウフユダミニガイ、ウ
フユダミカサンバン、オヨギニガイ、サ
ンバシニガイ、ヒャーヂィニガイ(ウフ
バンムチィ)。(9)

VI型 ウフンマ、アグシャー、ナカンマ
+ウフンマヌユームチャー、アグシャー
ヌユームチャー、ナカンマヌユームチャー
+ヤーキヌンマ+区長+シィマカラー
ヂィ

「祭祀名」ヒダガンニガイ、カエルニガ
イ。(2)

VII型 ウフンマ、アグシャー、ナカンマ
+男性神役(チィカサ)+ウヤ(親)+佐
良浜の男女

「祭祀名」ミャークヂィチィ。(1)

以上、7つの型に分類できるが、I型からV
型までは女性が祭祀参加者となる。VI型・VII
型は、女性祭祀参加者に区長とシィマカラー
ヂィの男が参加する形となる。VII型の祭祀はミャ
ークヂィチィだけだが、男性祭祀集団のムトゥ(元)
祭祀を伴い、男性参加型の祭祀と捉えられてい

る。このような意識は、池間・西原にも見える。

祭祀に参加する場合は、人々は村落共同体の
組織をいったん解いて、宗教的な場面にふさわ
しい参加集合的な組織な人間関係をつくりかえ
る。ハレの日用の構成法を採用するのである。
日常生活で直接的に祭祀に携わらないヤーキヌ
ンマが参加する祭祀はV型・VI型であるが、自
主参加である。強制的な参加ではないが、自ら
の夫・息子・兄弟が海関係の仕事に就いている
関係から参加するのである。

佐良浜の祭祀は中核を形成するウフンマ、
アグシャー、ナカンマの3人を基本型とし、
祭祀への参加者が増える形を用いているといえ
る。

5. 祭祀と供物

佐良浜は半農半漁の生業を営む村落である。
佐良浜の人々は、伝統を色濃く受け継ぐ人々で
あった。伝統的に男は漁業に、女は農業に従事
していた。小さな島で農耕耕作地には限度があ
り、すべての人が農耕を全面的に受容できな
かった。従って、海に目を向けざるを得なかつ
たのは、自然なことであろう。そのような佐良
浜にも大きな変化をもたらす政治・経済・教育
などの社会の大きなうねりがあった。

その社会の波は、日常生活に影響を及ぼした。
社会に変化があるように、祭祀・供物にも変遷
があるのは当然のことである。供物は祭祀実施
上、不可欠かつ必要なものである。供物はその
地域の食文化の反映である。

さて、食物には、植物食と動物食がある。動
植物は、生で食べるものと焼いたり煮たりする。
生ものは、海や畑でとりたてたそのままの状態
で、できるだけ新鮮なうちに食べる。漁をする
漁師たちは、しばしば船上でとりたての魚を捌
き刺身で食する。生ものには、煮焼するものが

相対する。

祭祀を行うにあたり供物は欠かせない。神に願意を聴いてもらうため、あるいは神に感謝の意志を示すために神前に供えるのである。供物として、生もの・煮焼するものが供えられる。

テキストでは、供物を、(1)線香、(2)供物に二分している。(1)線香はウカウ(御香)・カウ(香)と称される。用いられる香は、ヤマトウガウ(大和香)とウチイナーガウ(沖縄香)・ミヤークガウ(宮古香)と称されるヒラウカウ(平御香)・ヒラカウ(平香)である。テキストでは板香(平香)と記されている。いずれも市販のものを使用する。

祭祀により、大和香のみを使用するものと大和香・板香を併用するものがある。まず、大和香を使用する祭祀名を示す。本数の少ないものから多い順に示す。アークシャーとナカンマは、祭祀で用いる供物をトゥイヤ(村指定の商店)で購入するが、その中に「線香18束」などと記されているが、それは大和香と思われる。テキストの「ツイタチニガイ」の供物として「線香(大和香)4束」とあり、「前日の午後」の購入品目の中に「線香4束」とあるからである。従って、例えば購入品目の中に「線香(大和香)4束」とあれば、「18束」は「大和香」としたい。但し、祭祀の中で「板香(平香)」を用いる数量は不明である。

I、<大和香を用いる祭祀>

- ① 大和香を4束用いる祭祀名
ツイタチニガイ、ショーガチーフチアキニガイ、シートニガイ、ハナヒチイダミニガイ、ハーリーフチアキニガイ、マキニガイ。(6)
- ② 大和香を15束用いる祭祀名
ムシヌヌン、カチイマニガイ。(2)
- ③ 大和香を18束用いる祭祀名

カリユシイダミニガイ、カリユシイダミカサンバン、ウフユダミニガイ、ウフユダミカサンバン。(4)

- ④ 大和香を20束用いる祭祀名
ヒダガンニガイ、カエルニガイ。(2)

II、<大和香・板香(平香)を併用する祭祀>

- ① 大和香・板香(平香)を15束用いる祭祀名

ヒヤーチイニガイ(ウフバンムチイ)。(1)

- ② 大和香・板香(平香)を18束用いる祭祀名

マビトウダミニガイ、マビトウダミニガイヌカサンバン、マミヌバンムチイ、ムチイヌバンムチイ、アワヌバンムチイ、イモヌバンムチイ、オヨギニガイ、サンバシニガイ。(8)

*「マミヌバンムチイ」の束数は不明。「テキスト」に記載なしだが、他のバンムチイから「18束」と推察した。「サンバシニガイ」も不明だが「オヨギニガイ」からの類推による。

- ③ 大和香・板香(平香)を28束用いる祭祀名

ウフンマニガイ。(1)

- ④ 大和香・板香(平香)を30束用いる祭祀名

カーヌカンニガイ。(1)

- ⑤ 大和香・板香(平香)を31束用いる祭祀名

ムチイビューイウサギ。(1)

- ⑥ 大和香・板香(平香)を53束用いる祭祀名

ユークイ。(1)

- ⑦ 大和香・板香(平香)を4箱用いる祭

祀名

アービューイウサギ。(1)

- ⑧ 大和香・板香(平香)を25箱用いる
祭祀名

イモビューイウサギ。(1)

- ⑨ 何束用いるか不明な祭祀名

マビトウダミニガイヌミッカニガイ、イモビューイウサギヌミッカニガイ、ウフンマニガイヌミッカニガイ、ミヤークヂイチイ。(4)

カウをどのくらい用いるかはその祭祀で異なる。佐良浜では1柱の神に対し大和香3本用いる。祭祀場所でのどのような神(神名・機能)が鎮座し、どこに供えるかは不明なので今後調査の必要がある。ただ、アワビューイウサギとイモビューイウサギに用いる線香の数は半端ではなく、大変な量である。線香の量を多く用いるのが大きな祭りの象徴と言えるだろう。

大和香をいつごろから用いるようになったか、なぜそのようになったか。本来は、平香を用いたと思われるが、大和香と平香の使用区別もまた今後の課題である。

線香の他、「(2) 供物」もみていきたい。供物の種類の数は少なくとも5種類、多い場合には14種類ある。供物5種類の祭祀を基本型のそれとする。佐良浜の祭祀は、その基本型に更に供物を加えていく形式をとっている。〈供物5種類〉は以下の通りである。

〈供物5種類〉

ウフユー(大世)、ウジャキ(お酒)、ミヂイ(水)、クバン(塩)、インヌユー(海の世。煮干し)。以下、この5種類を「K」と表記する。

- ① 供物5種類と祭祀名 *()内は祭祀の数
マミヌバンムチイ、ムヂイヌバンムチイ、アワヌバンムチイ、イモヌバンムチイ、

ヒヤードイニガイ(ウフバンムチイ)、オヨギニガイ、サンバシニガイ、ミヤークヂイチイ。(8)

- ②—1 供物6種類と祭祀名

(1) K+オカヌユー(陸の世。お金)

ツイタチニガイ、ショガチイフチイアキニガイ、ムシイヌヌン、カヂイマニガイ、ハナヒチイダミニガイ、ハーリーフチイアキニガイ。(6)

- ②—2 供物6種類と祭祀名

(1) K+白砂糖

カーニガイ。(1)

供物・6種類の祭祀数は都合7だが、カーニガイにはオカヌユーに変わり白砂糖になる。白砂糖は井戸の周辺や「伊良部浄水場」内で放る。水が甘くなるよう(美味しくなるよう)にとの呪的行為である。

- ③ 供物7種類と祭祀名

(1) K+シッキジュー(お菜)・ウバン(御飯)

マビトウダミニミッカニガイ。(1)

(2) K+ウバン(御飯)・お菓子

ウフンマニガイヌミッカニガイ。(1)

(3) K+豚の料理・豚の生血

カエルニガイ。(1)

- ④ 供物8種類と祭祀名

ウフユー(大世)・ウジャキ(お酒)・ミヂイ(水)クバン・(塩)・麦ンチイ(麦神酒)・シッキジュー(お菜)・ウバン(御飯)・飲み物 *インヌユーがない祭祀の一つ。

ムヂイビューイウサギヌミッカニガイ。

(1)

- ⑤ 供物9種類と祭祀名

(1) K+シッキジュー(お菜)・お菓子・煙草・お茶

マビトウダミニガイ、マビトウダミカサンバン、カリユシイダミニイ、カリユシイダミカサンバン、ウフユダミニガイ、ウフユダミカサンバン。(8)

(2) K+アカンチイ(赤神酒。炊いた白米)・シロンチイ(白神。洗い米・豚料理。豚の頭。

ヒダガンニガイ。(1)

(3) ウジャキ(お酒)・ミヂイ(水)・クバン(塩)・インヌユー(海の世。煮干し)・ンマダリ(神酒)・お菓子・煙草・おにぎり

ユークイ。(1)

⑥ 供物12種類と祭祀名

(1) K+麦ンチイ(麦神酒)・シッキジャー(お菜)・お菓子・煙草・お茶・刺身・蛸ムヂイビューイウサギ。(1)

(2) K+粟ンチイ(粟神酒)・シキジャー(お菜)・お菓子・煙草・お茶・刺身・蛸アワビューイウサギ。(1)

(3) K+芋ンチイ(芋神酒)・シキジャー(お菜)・お菓子・煙草・お茶・刺身・蛸イモイビューイウサギ。(1)

麦・粟・芋の各ビューイウサギは基本的に供物は同じだが、祭祀の主旨に沿って神酒の種類だけが変わる。ビューイウサギ(日選り捧げ)は収穫祭である。ビューイウサギは農業関係の祭祀に行われ、漁業関係の祭祀にはない。

⑦ 供物14種類と祭祀名

K+粟ンチイ(粟神酒)・シッキジャー(お菜)・お菓子・煙草・お茶・刺身・蛸・そば・おにぎり。

ウフンマニガイ。(1)

佐良浜の祭祀には、ほとんどの祭祀に供物としてインヌユー(海の世。煮干し)が見える。これは、佐良浜の祭祀の供物としての特長であ

ろう。漁業が盛んな村としては、漁業関係の祭祀にみえるのは至極自然なことだが、農業関係の祭祀にも用いられている点にも注目される。

供物・インヌユーがみえない祭祀は、ウフンマニガイヌミッカニガイだけである。テキストには見えないが、ムヂイビューイウサギヌミッカニガイだけでなく、本来的には、アワビューイウサギヌミッカニガイ、イモビューイウサギヌミッカニガイも存在するはずである。

ウフンマニガイヌミッカニガイは、ウフンマヤーでダチンマたちによって行われ、ナナムイには行かない。ウフンマニガイヌミッカニガイは、本祭祀終了三日目に行われる祭祀で、ウフンマヤー(大母家)にて行われる。宮古でいうところのアトゥユーイ(後祝い)に相当しよう。

ミッカニガイの目的は、麦・粟・芋の穀類収穫に対する感謝であると同時に、祭祀が無事行われたことに対する神々への感謝がまず挙げられる。二つ目には、祭祀が無事に行えたことへの神役たちの慰労がある。

さて、ヒダガンニガイ・カエルニガイに供物として、豚・豚肉・豚の頭・豚の生血を供える点において他の32もの祭祀とは異なる。区長と男性補助約も参加する点にもある。

ヒダガンニガイは、豚を供犠とする。供犠の屠殺と神・神霊への贈与である。供犠を行うことによって、供犠を行った者が、神から返礼を享けると考える。

カエルニガイは、豚を供犠とするもヒダガンニガイとは若干様相が異なる。カエルニガイは他村落のシマクサラシに相当するが、異なる要素がある。遠い世界から悪霊がやってくるが、シマクサラシが悪霊や目に見えない厄介な霊、あるいは疫病が村落内に侵入するのを防ぐ防御的な祭祀であるに対し、カエルニガイは呪具であるススキ用い、人や家を叩く。家を叩く際に

「ヤマグーイダシバ」(悪霊出る)と叫ぶ。つまり、カエルニガイは防衛的な要素も備えているが、悪霊や目に見えない厄介なものを排積極

的に除する積極的な要素も含まれている。これが他の村落のシマクサラシと異なる点である。

佐良浜の年中祭祀 「名称・場所・供物の観点から」

祭祀の名称	供物(1) 線香の種類と数量	供物(2)	祭具	トウイヤでの購入物 物品
1 マミノバンムチ (豆の願い持ち)	大和香・板香(平香)	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し)	①ムッシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③バカシ(酒器の一種) ④ウシュービン(酒器の一種) ⑤ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑥ミジピン(水瓶) ⑦小皿 * 補った	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 2合瓶1本 ④クバン(塩)2袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
2 ムチヌバンムチ (麦の願い持ち)	大和香・板香(平香)	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し)	①ムッシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③バカシ(酒器の一種) ④ウシュービン(酒器の一種) ⑤ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑥ミジピン(水瓶) ⑦小皿 * 補った	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 2合瓶1本 ④クバン(塩)2袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
3 アフヌバンムチ (粟の願い持ち)	大和香・板香(平香)	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し)	①ムッシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ウシュービン(酒器の一種) ④ムムクユー(小皿) ⑤ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑥ミジピン(水瓶) ⑦小皿	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 2合瓶1本 ④クバン(塩)2袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
4 イモヌバンムチ (芋の願い持ち)	大和香・板香(平香)	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し)	①ムッシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ウシュービン(酒器の一種) ④ムムクユー(小皿) ⑤ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑥ミジピン(水瓶) ⑦小皿	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 2合瓶1本 ④クバン(塩)2袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
5 ヒャーディニガイ(ウフバンムチ) (比屋地願い)(大願い持ち)	大和香・板香(平香)	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し)	①ムッシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ムムクユー(小皿) ⑧ミジピン(水瓶) ⑨クバガサ(クバ笠) ⑩ディーギー(手木。杖)	①線香15束 ②ウフユー(米)1升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 ④クバン(塩)1袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)1斤
6 マキニガイ (牧願い)	大和香・4束	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し)	①ムッシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑥ミジピン(水瓶)	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶3本 2合瓶1本 ④クバン(塩)2袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
7 オヨギニガイ (泳ぎ願い)	大和香・板香(平香)	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し)	①ムッシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジピン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿)	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 2合瓶1本 ④クバン(塩)2袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
8 サンバニガイ (棧橋願い)	大和香・板香(平香)	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し)	①ムッシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジピン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿)	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 2合瓶1本 ④クバン(塩)2袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
9 ミャークチチ (宮古節)	大和香	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し)	①ムッシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ムムクユー(小皿) ⑧ミジピン(水瓶)	記述なし

10	チイタチチニガイ (一日願い)	大和香・4束	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥オカヌユー(陸の世。お金)	①ムツシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑥ミジビ(水瓶)	①線香・4束 ②ウフユ(米)1升 ③ウジャキ(御酒)2合瓶1本 ④クバン(塩)1袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)半斤
11	ショーガチフチアキギガイ (正月口明け願い)	大和香・4束	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥オカヌユー(陸の世。お金)	①ムツシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑥ミジビ(水瓶)	①線香・4束 ②ウフユ(米)1升 ③ウジャキ(御酒)2合瓶1本 ④クバン(塩)1袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)半斤
12	ムシヌヌ	大和香	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥オカヌユー(陸の世。お金)	①ムツシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビ(水瓶) ⑧虫流し用の小舟(アダン木)	①線香15束 ②ウフユ(米)1升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 ④クバン(塩)1袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)斤半
13	カチマニガイ (カチマ願い)	大和香	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥オカヌユー(お金)	①ムツシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビ(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿) ⑨虫流し用小舟	①線香15束 ②ウフユ(米)1升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 ④クバン(塩)1袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)半斤
14	ハナヒチダミニガイ (鼻引きのため願い)	大和香・4束	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥オカヌユー(お金)	①ムツシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑥ミジビ(水瓶)	①線香4束 ②ウフユ(米)1升 ③ウジャキ(御酒)2合瓶1本 ④クバン(塩)1袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)半斤
15	ハーリーフチアキニガイ (爬龍船口明け願い)	大和香・4束	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥オカヌユー(お金)	①ムツシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑥ミジビ(水瓶)	①線香4束 ②ウフユ(米)1升 ③ウジャキ(御酒)2合瓶1本 ④クバン(塩)1袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)半斤
16	カーニガイ (井戸願い)	大和香・30束	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥白砂糖	①ムツシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ムムクユー(小皿) ⑧クバガサ(クバ笠) ⑨ディーギー(手木。杖)	①線香30束 ②ウフユ(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 2合瓶1本 ④白砂糖3袋
17	セイトニガイ (生徒願い)	大和香・4束	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥シキジュー(お菜)	①ムツシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ムムクユー(小皿)	①線香30束 ②ウフユ(米)5キロ ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 2合瓶1本 ④クバン(塩)2袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)斤半
18	カエルニガイ (カエル願い)	大和香・20束	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥豚の料理 ⑦豚の生血	①ムツシュ(筵) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビ(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿)	記述なし
19	マビトウダミヌミッカニガイ (真人のための三日願い)	大和香	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥シキジュー(お菜) ⑦ウバン(御飯)	①ホダタミ(大盃。敷物) ②ウヒチ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビ(水瓶)	記述なし *補った
20	ウフマンニガイヌミッカニガイ (大母願いの三日願い)	大和香	①ウジャキ(お酒) ②ミチ(水) ③クバン(塩) ④麦ンチ(麦神酒) ⑤シキジュー(お菜) ⑥ウバン(御飯) ⑦お菓子	①ホダタミ(大盃) ②バカシ(酒器の一種) ③ターク(酒器の一種) ④ムムクユー(小皿) ⑤ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑥ウフジャラ(大皿) ⑦ナカジャラ(中皿)	記述なし ④麦ンチは、粟ンチ(粟神酒)の誤りか

21	ムチビユーイウサギヌミツカニガイ (麦日選り捧げの三日願い)	大和香	①ウジャキ(お酒) ②ミチイ(水) ③クバン(塩) ④麦ンチイ ⑤お菓子 ⑥飲み物 ⑦シキジュー(お菜) ⑧ウバン(御飯)	①ホダタミ(大量) ②バカシイ(酒器の一種) ③ターク(酒器の一種) ④ムムクユー(小皿) ⑤ユハイダイ(盃を載せる盆)	記述なし
22	マビトウダミニガイ (真人ため願い)	大和香・板香(平香)	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチイ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥シキジュー(お菜) ⑦お菓子 ⑧煙草 ⑨お茶	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿)	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 ④クバン(塩)2合瓶1本 ⑤クバン(塩)2袋 ⑥インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
23	マビトウダミニガイヌカサンバン (真人のため願いの重ね願い)	大和香・板香(平香)	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチイ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥シキジュー(お菜) ⑦お菓子 ⑧煙草 ⑨お茶	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿)	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 ④クバン(塩)2合瓶1本 ⑤クバン(塩)2袋 ⑥インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
24	カリユシイダミニガイ (嘉例吉ため願い)	大和香	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチイ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥シキジュー(お菜) ⑦お菓子 ⑧煙草 ⑨お茶	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿)	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 ④クバン(塩)2合瓶1本 ⑤クバン(塩)2袋 ⑥インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
25	カリユシイダミカサンバン (嘉例吉のための重ね願い)	大和香	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチイ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥シキジュー(お菜) ⑦お菓子 ⑧煙草 ⑨お茶	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿)	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 ④クバン(塩)2合瓶1本 ⑤クバン(塩)2袋 ⑥インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
26	ウフユダミニガイ (大世のため願い)	大和香	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチイ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥シキジュー(お菜) ⑦お菓子 ⑧煙草 ⑨お茶	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿)	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 ④クバン(塩)2合瓶1本 ⑤クバン(塩)2袋 ⑥インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
27	ヒダガンニガイ (浜神願い)	大和香・20束	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチイ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥アカンチイ(赤神酒。炊いた白米) ⑦シロンチイ(白神酒。洗い米) ⑧豚料理 ⑨豚の頭	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿)	①線香20束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 ④クバン(塩)2合瓶1本 ⑤クバン(塩)2袋 ⑥インヌユー(海の世。煮干し)1斤
28	ウフユダミカサンバン (大世のための重ね願い)	大和香	①ウフユー(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミチイ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥シキジュー(お菜) ⑦お菓子 ⑧煙草 ⑨お茶	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿)	①線香18束 ②ウフユー(米)2升 ③ウジャキ(御酒)4合瓶2本 ④クバン(塩)2合瓶1本 ⑤クバン(塩)2袋 ⑥インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
29	ユークイ (世乞い)	大和香・板香(平香)	①ウジャキ(お酒) ②ミチイ(水) ③クバン(塩) ④インヌユー(海の世。煮干し) ⑤ンマダリ(神酒) ⑥シキジュー(お菜) ⑦お菓子 ⑧煙草 ⑨おにぎり	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿) ⑨ヤラウジャラ(ヤラウ皿) ⑩フサバニ(草羽) ⑪ナナンザラ(小皿) ⑫ウフジャラ(大皿) ⑬ナカジャラ(中皿) ⑭ディーギー(手木。杖)	①線香53束 ②ウフユー(米)5キロ ③ウジャキ(御酒)4合瓶3本 ④クバン(塩)2合瓶1本 ⑤クバン(塩)3袋 ⑥インヌユー(海の世。煮干し)2斤半 ⑦煙草3箱

30	ムディビューイウサギ (粟日選り捧げ)	大和香・板香(平香)	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミヂイ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥粟ンチ ⑦シキジュー(お菜) ⑧お菓子 ⑨煙草 ⑩お茶 ⑪刺身 ⑫蛸	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿) ⑨ヤラウジャラ(ヤラウ皿) ⑩フサバニ(草羽) ⑪ナナソザラ(小皿) ⑫ウフジャラ(大皿) ⑬ナカジャラ(中皿)	①線香31束 ②ウフユ(米)5キロ ③ウジャキ(御酒)4合瓶3本 2合瓶1本 ④クバン(塩)3袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)1斤半 ⑥蛸10キロ ⑦そば7袋 ⑧刺身3キロ ⑨煙草3個 ⑩白麦1俵 ⑪赤麦1斗2升
31	アービューイウサギ (粟日選り捧げ)	大和香・板香(平香)	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミヂイ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥粟ンチ ⑦シキジュー(お菜) ⑧お菓子 ⑨煙草 ⑩お茶 ⑪刺身 ⑫蛸	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿) ⑨ヤラウジャラ(ヤラウ皿) ⑩フサバニ(草羽) ⑪ナナソザラ(小皿) ⑫ウフジャラ(大皿) ⑬ナカジャラ(中皿)	①線香4箱 ②ウジャキ(御酒)4合瓶3本 2合瓶1本 ③クバン(塩)3袋 ④インヌユー(海の世。煮干し)1斤半
32	イモビューイウサギ (粟日選り捧げ)	大和香・板香(平香)	<ナシ>①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミヂイ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥芋ンチ ⑦シキジュー(お菜) ⑧お菓子 ⑨煙草 ⑩お茶 ⑪刺身 ⑫蛸	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿) ⑨ヤラウジャラ(ヤラウ皿) ⑩フサバニ(草羽) ⑪ナナソザラ(小皿) ⑫ウフジャラ(大皿) ⑬ナカジャラ(中皿)	①線香25箱 ②ウジャキ(御酒)4合瓶3本 2合瓶1本 ③クバン(塩)3袋 ④インヌユー(海の世。煮干し)1斤半 ⑤蛸10キロそば7袋 ⑥刺身3キロ ⑦煙草3箱 ⑧芋120斤
33	ウフマニガイ (大母願い)	大和香・板香(平香)	①ウフユ(大世・米) ②ウジャキ(お酒) ③ミヂイ(水) ④クバン(塩) ⑤インヌユー(海の世。煮干し) ⑥アーンチイ(粟神酒) ⑦シキジュー(お菜) ⑧お菓子 ⑨煙草 ⑩お茶 ⑪刺身 ⑫蛸 ⑬そば ⑭おにぎり	①ムツシュ(筵) ②ウヒチイ(お櫃。盆) ③ターク(酒器の一種) ④バカシイ(酒器の一種) ⑤ウシュービン(酒器の一種) ⑥ユハイダイ(盃を載せる盆) ⑦ミジビン(水瓶) ⑧ムムクユー(小皿) ⑨ヤラウジャラ(ヤラウ皿) ⑩フサバニ(草羽) ⑪ナナソザラ(小皿) ⑫ウフジャラ(大皿) ⑬ナカジャラ(中皿)	①線香28束 ②ウフユ(米)2升 ③ウジャキ(御酒)1升1本 ④クバン(塩)3袋 ⑤インヌユー(海の世。煮干し)半斤 ⑥粟

注
①番号は本稿の整理番号である。
②供物の少ないものから、多い順にならべた。
③②より月ごとに並べた。

6. 最後に

本稿は、『みやこの祭祀』(下巻)から「佐良浜の年中祭祀」を取り上げ、神役・拝所・祭祀の参加者・供物の観点から分析を施した。

そもそも年中祭祀(年中行事)とはいったい何なのか。何のために行うのか。現代社会の日常生活の中でも、行事としての正月や盆は欠かせない。かつての村落社会の「佐良浜の年中祭祀」もしかりであった。が、現在は実施されていない。その原因・理由は様々あろうが、近・

現代の教育とそれを支える科学観が一つのそれと考えられるのではないか。科学論によって、伝統的な祭祀や考え方が、迷信とか野蛮という名によって否定され、ある意味において一掃された側面がある。

換言すれば、近代社会は、自分たちが位置する世界は過去とのつながりの上に成り立っているという事実を否定し、合理的な考え方だけで人間の世界を作り上げようとしている。

本来、年中祭祀(年中行事)は、その地域の人々の生活に根差したものである。いわば、その地域の人々の人間観や自然観が反映されたも

のである、といってもよいだろう。自らが置かれた場所、位置を考えたとき、それをどのように認識し、自らの周りの人間・自然環境にどう対処するか。それはおかれた場所・地域によって異なるだろう。即ち、人間や自然・宇宙をどのように把握し、どう対処するか、それが問題である。

人々は、生き抜くための対処の方法として「年中祭祀」を発明した。人間の思慮・思惟を働かせたのである。習俗の論理はそれ自体として価値を持った一つの論理体系なのだ。神話の論理も然りだ。おそらくそれは、世界認識の一部であり、始原の哲学ともいえるだろう。「年中祭祀」(哲学)の主なリーダー・実践者は、チィカサ(司)であった。

かつて、宮古社会では村の「年中祭祀」を実施する祭司(佐良浜の場合はウフンマ)は、村落社会の安寧ばかりか自然をも左右する存在だといわれていた。一種の神(人間神)であった。従って、村落が豊かではなく、安寧な社会でなければ、チィカサ(司)はユーパギチィカサ(世剥げ司。豊かさをもたらさない司)としてその座を追放された、という。祭祀は大切だが、それを担う者も単なる役職ではなく重大な責任を伴った。

そのような意味合いもあってか、佐良浜の神役の辞退という現象は、様々なことを示唆するのではなかろうか。いづれにせよ、佐良浜の民俗・宗教の調査にはまだまだ時間がかかるし、その解明には多くの課題がある。

また、佐良浜は池間からの分村であるが、祭祀や歌謡がどのように伝承されたのか。祭祀名は全て同一なのか否か。また歌謡はどう伝承されたか。池間とは別に、佐良浜独特な歌が創られたかどうか。様々な問題・課題がある。池間と佐良浜の比較・検討もこれから解明されねばならないだろう。

注

注① 『平良市史』(第8巻 御嶽編) 平良市教育委員会 1988年。

注② 奥濱幸子『暮らしと祈り』ニライ社 1997年。

注③ 2020年3月12日、佐渡山安公さんと同行し、佐良浜で調査した。

注④ 両者の「ノート」を比較すると、祭祀名は基本的にはほぼ同一だが、干支・月日が異なる祭祀が認められる。

注⑤ 池間・西原も同様である。狩俣も年間の祭祀サイクルを夏祭りと冬祭りに二分する。

注⑥ 『宮古島市史』第三巻 祭祀編(下) 悉皆調査 宮古島市教育委員会 2021年3月。

同書では、佐良浜の祭祀の「悉皆調査」となっているが、祭祀の数は35。1992年の「オホンマ」の「ノート」とは祭祀の数が違う。「悉皆調査」は、実際に現地調査したものと聞き書きによるものがある。

2015年の「ンマユイ」儀礼で3人のダチンマが選出された。2人は承諾したが、1人が神役になることを承諾しなかったため、2015年以降の佐良浜の祭祀は行われていない現状がある。

【付記】

本稿は、佐良浜の供物について述べたものである。『みやこの祭祀』と重複する部分もある。『みやこの祭祀』では、14項目であった。本稿では33の項目となっている。佐良浜の年間祭祀のすべてではないが、載せることにした。『みやこの祭祀』で佐良浜の担当だった新垣則子氏に感謝したい。

